

《第152回》 令和八年二月の作品

〈二月十三日（金）文京シビックセンター5D〉

小夜更けてひとりの時を春の地震な
る （一江）

凍ゆるむ無人駅舎の掛け時計 （孝昭）

父母遠し浅間の山の寒霞 （前歩）

春めくや窓辺に置きし砂時計 （隆治）

のどかさや秒針休む掛け時計 （貴美）

さっそうと歩く姿や春シヨール （平六）

探梅や薄紅色が空に映ゆ （奉男）

雪の結晶天然の万華鏡 （正雄）

幸先は良しスノーボーで金と銀 （正佳）